（別紙様式4）

令和6年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	平成6年12月8日	田中　良	〒　951-8063 （住所）　新潟県新潟市中央区古町通7番町935番地　NSG-スクエア 2F （電話）　025-225-1661
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人国際総合学園	昭和32年10月10日	池田　祥護	〒　951-8063 （住所）　新潟県新潟市中央区古町通二番町541 （電話）　025-210-8565

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽アーティスト科 （ヴォーカルコース）	平成22(2010)年度	－	平成27(2015)年度

学科の目的	音楽アーティスト科の学科目的：優れた専門性と豊かな創造性を教育の基本理念とし、芸術分野に携わる人材としての専門技能及び実際生活に必要な能力を養成すると共に文化的教養の向上を図り、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。当学科では、充実したスタジオ設備の中でプロによる指導を最大限重視して専門教育を施し、専門性の高いヴォーカリスト・ミュージシャンを音楽業界へ輩出する。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	主に歌・楽器に関する知識・技術を高める学科である。 目指す資格：社会人常識マナー検定、コミュニケーション検定、Word文書処理技能認定試験、Excel表計算処理技能認定試験　など 中退率：0%(2022年度実績)

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,742 単位時間	438 単位時間	0 単位時間	1,113 単位時間	0 単位時間	191 単位時間
			－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
20 人	12(20人の内数) 人	0 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 10	人
■就職希望者数 (D)	: 2	人
■就職者数 (E)	: 2	人
■地元就職者数 (F)	1	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	50	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	20	%
■進学者数	3	人

■その他

フリーランスとして活動

（令和　　5 年度卒業者に関する令和６年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

音楽プロダクション、TV・ラジオ局等の音楽・メディア業界、一般企業　他

－

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　－　　受審年月：　－　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ　－

当該学科のホームページURL

https://show-net.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	1,742 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,338 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	1,742 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,338 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	－ 単位
うち必修授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	－ 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	－ 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	10 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		12 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

音楽アーティスト科ヴォーカルコースでは、プロデビューやプロ活動、ヴォーカルインストラクター等の音楽・エンタテイメント業界で活躍できる人材の育成を目指している。
現在の音楽業界を取り巻く環境は日々変化しており、歌・ダンス・エンタテイメント・舞台に関する知識・技術が不可欠である。
本学科コースではこれらに必要な知識・技術を学べるようカリキュラムを編成している。
音楽プロダクションである「株式会社柳都アーティストファーム」と連携し、業界で求められている能力を身につけられるよう、意見交換を行いながら授業科目の設定や授業内容の改善を行っている。
また、学んだ知識をもとに地域社会に貢献できるように地域のイベントへの出演や楽曲制作など、実際の現場を体験しながら必要な知識・技術の定着を図るとともに、目標とする人材像を目指していく。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は本校の教務部長のもとにおく。
カリキュラム改善のための意見収集の場として位置付けられている。
業界、法人で求められる人材像に関する意見交換、それに対応できる教育内容、授業内容の検討の場として機能している。
その後、ここで得た意見を学内教務部にて再度検討し、決定する。
またその内容については、教育課程編成委員会へフィードバックを行う。

【審議の流れ】
①カリキュラム改善のための教育課程編成委員会での意見交換会議
②学内教務部にて①で出た意見を踏まえたカリキュラム改善の検討・決定
③②での決定事項を教育課程編成委員会へフィードバック
④カリキュラム改善

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
堀内　貞子	新潟市芸術文化振興財団	令和5年4月1日～令和7年3月31日	①
井上 一郎	株式会社エヌトライブ	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
CHiCO	SEKAI WALKER Producers 合同会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
下坂　旬也	株式会社柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
山本　雄太	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―
永島　麻耶	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―
大野　知世	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回　（8月、3月）

（開催日時（実績））
第1回　令和5年8月31日　10:00～12:00
第2回　令和6年3月28日　10:00～12:00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
ヴォーカリストとして事務所所属を目指していくにあたり、いかに多くの楽曲を制作するかが重要だとの話になった。ヴォーカリストとしてオリジナル曲を持つことがデビューへの近道になるとの話になり、学生たちが作曲できるような授業を盛り込んでいく必要があるとの話になった。「イベント制作実習A」や「イベント制作実習B」では多くの方への発表の場が用意されているため、ここに向けた作品の制作や自身の歌唱力の向上ができるよう連携して授業運営していくこととなった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
① 企業連携に基づく実習授業を通して、学校とは異なる職業現場での経験を培う(職業実践の経験の獲得)。
② 当校にて学んだ知識・技術を実践現場への応用を図ることで、新たな知識・技術の習得を図る(習得知識・技術の定着ならびに応用)。
③ 企業連携を通じて、社会人として必要な意識の醸成を図る(社会人への導入教育)。
④ 業界または各企業の人材採用における人材要素の確認(人材要素に関する情報収集)。
⑤ 採用を視野にいれた実習運営(企業との良好な関係性の構築)。
⑥ 実習時間内における安全性の確保。
以上６点を基本方針として、実習授業の運営の協力を依頼している。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
基本的な企業との連携内容については、教員と企業担当者とで事前打ち合わせを行い、業界のニーズに沿った内容や評価方法について話し合い、その後、学生と企業担当者とで実習内容の打ち合わせを行い、企業担当者指導の下、実習を行う。
その後、進捗状況をチェックし、フィードバックとして必要な研修を学生に対し、行う。
実習後は企業担当者からの評価を踏まえ、教員が成績評価を行う。

以下具体的な授業内容とその方法、評価についてである。

①「イベント制作実習」では、企業である「エヌトライブ」や「柳都アーティストファーム」と実習内容について、業界のニーズに沿った内容や評価方法について設定
②学生と企業担当者とで実習内容の事前の打ち合わせを行う
③「イベント制作実習」にて上記企業指導の下、レコーディングを実施
④学生による実習の報告を学内にて教員が確認し、必要な研修の実施
⑤企業担当者による評価として、学生の制作内容、技術の習熟度を総合評価
⑥企業担当者による評価に基づき、教員が成績評価を行う

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
イベント制作実習A	進級・卒業における音楽イベントの発表会 野外フェスを作り上げる。フェスを作り上げる過程を企業と連携する。またステージの動画を音楽系企業に送付し、フィードバックを頂き、自身の学びにつなげていく。	株式会社エヌトライブ 株式会社柳都アーティストファーム
イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 新潟県民会館でのコンサートを実施。コンサートを作り上げる過程を企業と連携し、行っていく。またアーティストの視点でCD制作やミュージックビデオ制作を行ない、自身の活動に活かしていく。	株式会社エヌトライブ 株式会社柳都アーティストファーム

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 企業との連携による実践的かつ専門的な知識・技術・技能や、指導力の習得・向上のための組織的な研修機会を確保している。 就業規則第57条の規定に基づき、職員の教育、研修等を行う。 ①新入社員教育 ②一般的な知識・情操に関するもの ③専門分野の知識・技術に関するもの ④組織等についての管理、監督に関するもの ⑤諸法規、諸規定に関するもの ⑥安全・衛生管理に関するもの ⑦その他学生指導について必要と認められるもの また、これらの研修については年間計画に基づき、実施されるものである。 2月　新経営スタッフ研修 3月　専門学校新任教員基礎研修 3月　実践行動学インストラクター研修 3月　動画研修 3月　メンタルヘルス研修 6月　新入社員フォローアップ研修 6月　考課者研修 9月　対人コミュニケーションとプレゼンテーション研修 10月　マネジメントとリーダーシップ研修 10月　コーチング研修 11月　問題解決研修 また、このほかに業界の動向などを把握の上、専門課程の研修計画を改善し、必要な研修を実施する。
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等
研修名：　音楽業界セミナー　連携企業等：エイベックス・エンタテインメント株式会社 期間：　令和5年4月21日　対象：全教員 内容　変化の激しい音楽業界のトレンドと求められる人材について
研修名：　音楽アーティストセミナー　連携企業等：SEKAI WALKER 合同会社 期間：　令和5年5月19日　対象：全教員 内容　アーティストに求められる力とは？必要なスキル・考え方を学ぶ
研修名：　AI作曲セミナー　連携企業等：株式会社TMIK 期間：　令和5年6月2日　対象：全教員 内容　AI作曲ソフト「FIMIGRAM」の使用方法を学ぶ
②指導力の修得・向上のための研修等
研修名：　エンタメ業界における人間性育成とは　連携企業等：合同会社UNITY 期間：　令和5年4月14日　対象：全教員 内容　音楽・エンタテイメント業界で求められる人間性指導について学ぶ
研修名：　アンガーマネジメント　～怒りの感情に責任を持とう～　連携企業等：社会保険労務士法人 こじま事務所 期間：　令和5年7月26日　対象：全教員 内容　ハラスメント研修のうち、アンガーマネジメントについて学ぶ

研修名：	アンコンシャスバイアス研修	連携企業等：	一般社団法 人アンコンシャスバイアス研究所
期間：	令和6年2月21日	対象：	全教員
内容	アンコンシャスバイアスを知り、組織をよりよく変える方法を学ぶ		
（3）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	映像業界の今	連携企業等：	株式会社BABEL LABEL
期間：	令和6年10月4日	対象：	全教員
内容	映像業界に起きている状況と今後のトレンドについて学ぶ		
研修名：	音楽業界最前線セミナー	連携企業等：	SMASH ROOM
期間：	令和6年10月11日	対象：	全教員
内容	音楽事務所代表から現在の音楽業界で求められる人材について学ぶ		
研修名：	「よしもと」から学ぶエンタメ業界	連携企業等：	吉本興業株式会社
期間：	令和6年10月18日	対象：	全教員
内容	吉本興業が手掛けるエンタメ事業について学ぶ		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	ダンス・エンタメ業界における人間性育成とは	連携企業等：	合同会社UNITY
期間：	令和6年11月22日	対象：	全教員
内容	音楽・ダンス・エンタテイメント業界で求められる人間性指導について学ぶ		
研修名：	ハラスメント防止研修	連携企業等：	社会保険労務士法人 こじま事務所
期間：	令和7年2月※日程調整中	対象：	全教員
内容	職場内、学生対応におけるコミュニケーションや指導について学ぶ		
研修名：	考課者フォローアップ研修	連携企業等：	社会保険労務士法人 こじま事務所
期間：	令和7年3月11日	対象：	考課者
内容	考課者における指導・面談方法を学ぶ		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
学生、保護者、教職員等、直接的な学校関係者および就職先企業など、当校を取り巻く関係者にわかりやすく、明確な学校評価を実施する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
（2）学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
（3）教育活動	・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け、授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を就職するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取り組みが行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
（4）学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか

（5）学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか
（6）教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものとなっているか
（8）財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか
（9）法令等の遵守	・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
（10）社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
（11）国際交流	ー

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
評価すべき点として、主に以下のような内容が意見として出ている。

①新潟県の多くのイベントで生徒たちがインターンシップなどで活躍している状況は、新潟の音楽文化発展に大きく寄与している。
②多くの音楽関係者による特別授業を設定し、また生徒との名刺交換を実施するなど、社会人マナーを身に付ける場としても活用され、高く評価する。
③マナーやルールを徹底することは人間性育成にプラスになっている。
④新潟県の音楽系企業への専門職就職については概ね良好であり、現場で卒業生が活躍していることは、新潟県の音楽文化発展に大きく寄与している

また、改善が必要な点として、大きく以下の点が挙げられた。

①インターンシップを多く実施していることは非常に良いことであるが、毎回ある程度決まった学生がインターンシップを行っており、インターンシップに積極的に参加する学生とそうでない学生が二極化している。

⇒この点については、学内にてインターンシップの学生振り分けを学生担当を設け、二極化しないようにした。また担当教員が学生担当と密に連携し、多くの学生がインターンシップに参加できるように活かした。

②保護者との情報共有が薄く、学生の進路について、担任と保護者との連携を強めるべきである。

⇒この点については、定期的に「学校通信」を刊行し、学校で行われていることを定期的に保護者に伝えるようにしていく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
下坂　旬也	株式会社 柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業代表取締役
松本　和良	株式会社 柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業役員
国友　慎之助	合同会社UNITY	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	代表
山﨑　亮	作曲家(フリーランス)	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生
延澤　汐美	ヴォーカルインストラクター(フリーランス)	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL：　https://show-net.jp/pdf/information/evaluation.pdf
公表時期：　令和5年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
・パンフレットなどの印刷物、ホームページなど学校の紹介の中で現在の状況を伝えること
・具体性を持った情報提供に努めること

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	（1）学校の概要、目標及び計画
（2）各学科等の教育	（2）各学科等の教育
（3）教職員	（3）教職員
（4）キャリア教育・実践的職業教育	（4）キャリア教育・実践的職業教育
（5）様々な教育活動・教育環境	（5）様々な教育活動
（6）学生の生活支援	（6）学生の生活支援
（7）学生納付金・修学支援	（7）学生納付金・修学支援
（8）学校の財務	（8）学校の財務
（9）学校評価	（9）学校評価
（10）国際連携の状況	－
（11）その他	－

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL：　https://show-net.jp/information.php
公表時期：　令和6年3月31日

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程　音楽アーティスト科(ヴォーカルコース)）

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法				場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技		校内	校外	専任	兼任	
1	○			SHOW!音楽エンタテイメントゼミ	関連企業による専門分野に特化した講演・講義を実施。音楽・放送分野に関する基礎的な知識や技術の習得とともに、同分野への興味関心をより高める。	1・2通	90	-	○				○			○	
2	○			デビュー・就職実務Ⅰ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	1通	72	-	○				○		○		
3	○			デビュー・就職実務Ⅱ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	2通	55	-	○				○			○	
4	○			著作権	音楽著作権を主とした知識習得およびビジネス著作権初級合格	1後	25	-	○				○		○		
5	○			PC実習	Word文書処理技能認定試験・Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目指すとともに、基本的なビジネス文書の作成や、様々な自己プレゼン資料等の作成に生かす。	1・2通	54	-			○		○		○		
6	○			異文化研究	グローバル化していく時代に対応するため、他国の文化を学び研究し、プレゼンを行う	1・2後	40	-	○				○		○		
7	○			イベント制作実習A	進級における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2前	##	-			○		○	○	○	○	○
8	○			イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2後	##	-			○		○	○	○	○	○
9	○			ヴォイストレーニングⅠ	発声や歌唱に関する知識の構築と、基礎としての土台作りを通して、声に対しての興味と関心を深くする。	1通	38	-			○		○			○	
10	○			ヴォイストレーニングⅡ	1年次から行っている他ジャンルへの知識と興味も深くし、自身のオリジナル楽曲制作へのアイディアやヒントとさせ、制作意欲を上げていく。	2通	38	-			○		○			○	
11	○			作詞実習	作詞に関し、DAWソフトを使用しつつ基礎的な技法を学ぶ。 ①既存曲から希望楽曲の選定②作詞③ブラッシュアップ④仮歌の録音	1通	19	-			○		○			○	
12	○			音楽理論	音楽理論の基礎からコード理論・コードスケールの基本と相互関係を総合的に学びます。	1通	19	-	○				○			○	
13	○			コーラスワーク	ヴォーカリストとして大切な「相対音感」を身につけるためのトレーニングを行う。	1通	76	-			○		○			○	
14	○			ヴォーカルレコーディング	コンデンサーマイクでのヴォーカリング、ヘッドフォンを使ってのモニタリングやキューボックスの操作に慣れ、自分にとって歌いやすいセットアップ法を学ぶ	2通	38	-			○		○		○		
15	○			Pro Tools実習	音楽制作ソフト　Pro Toolsの使い方を学び、より簡単に自身の作品を発表できるように知識・技術を習得する。	1通	38	-			○		○		○		
16	○			ヴォーカル実技Ⅰ	ヴォーカリスト入門として、初めて歌に向き合う上での必要なスキルや技術的な部分を学ぶ	1通	17	-			○		○		○		
17		○		ヴォーカル実技Ⅱ	ヴォーカリストに必要な技術、セルフプロモーションの方法等、ヴォーカリストとしてのスキル全般を学びます	2通	57	-			○		○		○		
18	○			ソルフェージュ	譜面に記してある様々な要素（旋律、リズム、ハーモニー等）を正確に読み取り、正確に表現する。	2通	17	-	○				○			○	
19	○			ライブパフォーマンス実習	ライブやイベント出演の際に必要な基礎知識（サウンドチェック、パフォーマンス準備）や技術（演奏力、魅せ方）などを学び、自身のパフォーマンス力向上を図る	1通	30	-			○		○			○	
20	○			作曲実習	ステージ発表、オーディションに向けて、自身で作詞作曲したオリジナル楽曲を作成するため、スコアの知識、コードに対するメロディ付けを学ぶ。	2通	34	-			○		○		○		
21		○		作曲実習／ピアノ実習	楽譜の読み方、運指、リズム、奏法を学び、実践に繋げる。 ピアノソロでもアンサンブルでも活用できる技術を学ぶ。	1通	34	-			○		○		○		
22	○			ダンス基礎	ダンスを通して、曲の表現の仕方、音の聞き方、リズム感を学び自分だけの表現方法を学ぶ。	1通	30	-			○		○		○		
合計					22　科目				1825　単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：　①年次の授業全体の出席率85%以上 ②成績評価がすべてD以上 ③授業料等の学費の納入	1学年の学期区分	2 期
履修方法：学科・コースのカリキュラムに沿って履修する	1学期の授業期間	18 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式4）

令和6年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	平成6年12月8日	田中　良	〒　951-8063 （住所）　新潟県新潟市中央区古町通7番町935番地　NSG-スクエア 2F （電話）　025-225-1661
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人国際総合学園	昭和32年10月10日	池田　祥護	〒　951-8063 （住所）　新潟県新潟市中央区古町通二番町541 （電話）　025-210-8565

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽アーティスト科 （ギターコース）	平成22(2010)年度	－	平成27(2015)年度

学科の目的	音楽アーティスト科の学科目的：優れた専門性と豊かな創造性を教育の基本理念とし、芸術分野に携わる人材としての専門技能及び実際生活に必要な能力を養成すると共に文化的教養の向上を図り、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。当学科では、充実したスタジオ設備の中でプロによる指導を最大限重視して専門教育を施し、専門性の高いヴォーカリストやミュージシャンを音楽業界へ輩出する。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	主に歌・楽器に関する知識・技術を高める学科である。 目指す資格：社会人常識マナー検定、コミュニケーション検定、Word文書処理技能認定試験、Excel表計算処理技能認定試験　など 中退率：0%(2022年度実績)

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,742 単位時間	420 単位時間	0 単位時間	1,322 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
20 人	2(20人の内数) 人	0 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 2	人
■就職希望者数 (D)	: 2	人
■就職者数 (E)	: 2	人
■地元就職者数 (F)	2	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	100	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	100	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　5 年度卒業者に関する令和６年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

音楽プロダクション、TV・ラジオ局等の音楽・メディア業界、一般企業　他

－

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　－　　受審年月：　－　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ　－

当該学科のホームページURL

https://show-net.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	1,742 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,424 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	1,742 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,424 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	－ 単位
うち必修授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	－ 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	－ 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	10 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		12 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

音楽アーティスト科ギターコースでは、プロデビューやプロ活動、楽器インストラクター等の音楽・エンタテイメント業界で活躍できる人材の育成を目指している。
現在の音楽業界を取り巻く環境は日々変化しており、歌・ダンス・エンタテイメント・舞台に関する知識・技術が不可欠である。
本学科コースではこれらに必要な知識・技術を学べるようカリキュラムを編成している。
音楽プロダクションである「株式会社柳都アーティストファーム」と連携し、業界で求められている能力を身につけられるよう、意見交換を行いながら授業科目の設定や授業内容の改善を行っている。
また、学んだ知識をもとに地域社会に貢献できるように地域のイベントへの出演や楽曲制作など、実際の現場を体験しながら必要な知識・技術の定着を図るとともに、目標とする人材像を目指していく。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は本校の教務部長のもとにおく。
カリキュラム改善のための意見収集の場として位置付けられている。
業界、法人で求められる人材像に関する意見交換、それに対応できる教育内容、授業内容の検討の場として機能している。
その後、ここで得た意見を学内教務部にて再度検討し、決定する。
またその内容については、教育課程編成委員会へフィードバックを行う。

【審議の流れ】
①カリキュラム改善のための教育課程編成委員会での意見交換会議
②学内教務部にて①で出た意見を踏まえたカリキュラム改善の検討・決定
③②での決定事項を教育課程編成委員会へフィードバック
④カリキュラム改善

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
堀内　貞子	新潟市芸術文化振興財団	令和5年4月1日～令和7年3月31日	①
井上 一郎	株式会社エヌトライブ	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
CHiCO	SEKAI WALKER Producers 合同会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
下坂　旬也	株式会社柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
山本　雄太	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―
永島　麻耶	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―
梅川洸平	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （8月、3月）

（開催日時（実績））
第1回　令和5年8月31日　10:00～12:00
第2回　令和6年3月28日　10:00～12:00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
ミュージシャンとしてプロデビューや事務所所属を目指していくにあたり、いかに多くの楽曲を制作するかが重要だとの話になった。オリジナル曲を制作できるようなカリキュラムを盛り込んでいくことと、スタジオミュージシャンとして活躍できるようなスキルを身につけていくこと、など。「イベント制作実習A」や「イベント制作実習B」では新潟LOTSや新潟県民会館など、1000人規模の会場で発表を行うこともあり、集客についても学び、実践していくことでプロとして活動していくためのノウハウを学ぶことができる。学生のプロデビューやプロ活動のためにより企業と連携していくとの話になった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
① 企業連携に基づく実習授業を通して、学校とは異なる職業現場での経験を培う(職業実践の経験の獲得)。
② 当校にて学んだ知識・技術を実践現場への応用を図ることで、新たな知識・技術の習得を図る(習得知識・技術の定着ならびに応用)。
③ 企業連携を通じて、社会人として必要な意識の醸成を図る(社会人への導入教育)。
④ 業界または各企業の人材採用における人材要素の確認(人材要素に関する情報収集)。
⑤ 採用を視野にいれた実習運営(企業との良好な関係性の構築)。
⑥ 実習時間内における安全性の確保。
以上６点を基本方針として、実習授業の運営の協力を依頼している。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
基本的な企業との連携内容については、教員と企業担当者とで事前打ち合わせを行い、業界のニーズに沿った内容や評価方法について話し合い、その後、学生と企業担当者とで実習内容の打ち合わせを行い、企業担当者指導の下、実習を行う。
その後、進捗状況をチェックし、フィードバックとして必要な研修を学生に対し、行う。
実習後は企業担当者からの評価を踏まえ、教員が成績評価を行う。

以下具体的な授業内容とその方法、評価についてである。

①「イベント制作実習」では、企業である「エヌトライブ」や「柳都アーティストファーム」と実習内容について、業界のニーズに沿った内容や評価方法について設定
②学生と企業担当者とで実習内容の事前の打ち合わせを行う
③「イベント制作実習」にて上記企業指導の下、レコーディングを実施
④学生による実習の報告を学内にて教員が確認し、必要な研修の実施
⑤企業担当者による評価として、学生の制作内容、技術の習熟度を総合評価
⑥企業担当者による評価に基づき、教員が成績評価を行う

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
イベント制作実習A	進級・卒業における音楽イベントの発表会 野外フェスを作り上げる。フェスを作り上げる過程を企業と連携する。またステージの動画を音楽系企業に送付し、フィードバックを頂き、自身の学びにつなげていく。	株式会社エヌトライブ 株式会社柳都アーティストファーム
イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 新潟県民会館でのコンサートを実施。コンサートを作り上げる過程を企業と連携し、行っていく。またアーティストの視点でCD制作やミュージックビデオ制作を行ない、自身の活動に活かしていく。	株式会社エヌトライブ 株式会社柳都アーティストファーム

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 企業との連携による実践的かつ専門的な知識・技術・技能や、指導力の習得・向上のための組織的な研修機会を確保している。 就業規則第57条の規定に基づき、職員の教育、研修等を行う。 ①新入社員教育 ②一般的な知識・情操に関するもの ③専門分野の知識・技術に関するもの ④組織等についての管理、監督に関するもの ⑤諸法規、諸規定に関するもの ⑥安全・衛生管理に関するもの ⑦その他学生指導について必要と認められるもの また、これらの研修については年間計画に基づき、実施されるものである。 2月　新経営スタッフ研修 3月　専門学校新任教員基礎研修 3月　実践行動学インストラクター研修 3月　動画研修 3月　メンタルヘルス研修 6月　新入社員フォローアップ研修 6月　考課者研修 9月　対人コミュニケーションとプレゼンテーション研修 10月　マネジメントとリーダーシップ研修 10月　コーチング研修 11月　問題解決研修 また、このほかに業界の動向などを把握の上、専門課程の研修計画を改善し、必要な研修を実施する。
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等
研修名：　音楽業界セミナー　連携企業等：エイベックス・エンタテインメント株式会社 期間：　令和5年4月21日　対象：全教員 内容　変化の激しい音楽業界のトレンドと求められる人材について
研修名：　音楽アーティストセミナー　連携企業等：SEKAI WALKER 合同会社 期間：　令和5年5月19日　対象：全教員 内容　アーティストに求められる力とは？必要なスキル・考え方を学ぶ
研修名：　AI作曲セミナー　連携企業等：株式会社TMIK 期間：　令和5年6月2日　対象：全教員 内容　AI作曲ソフト「FIMIGRAM」の使用方法を学ぶ
②指導力の修得・向上のための研修等
研修名：　エンタメ業界における人間性育成とは　連携企業等：合同会社UNITY 期間：　令和5年4月14日　対象：全教員 内容　音楽・エンタテイメント業界で求められる人間性指導について学ぶ
研修名：　アンガーマネジメント　～怒りの感情に責任を持とう～　連携企業等：社会保険労務士法人 こじま事務所 期間：　令和5年7月26日　対象：全教員 内容　ハラスメント研修のうち、アンガーマネジメントについて学ぶ

研修名：	アンコンシャスバイアス研修	連携企業等：	一般社団法 人アンコンシャスバイアス研究所
期間：	令和6年2月21日	対象：	全教員
内容	アンコンシャスバイアスを知り、組織をよりよく変える方法を学ぶ		
（3）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	映像業界の今	連携企業等：	株式会社BABEL LABEL
期間：	令和6年10月4日	対象：	全教員
内容	映像業界に起きている状況と今後のトレンドについて学ぶ		
研修名：	音楽業界最前線セミナー	連携企業等：	SMASH ROOM
期間：	令和6年10月11日	対象：	全教員
内容	音楽事務所代表から現在の音楽業界で求められる人材について学ぶ		
研修名：	「よしもと」から学ぶエンタメ業界	連携企業等：	吉本興業株式会社
期間：	令和6年10月18日	対象：	全教員
内容	吉本興業が手掛けるエンタメ事業について学ぶ		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	ダンス・エンタメ業界における人間性育成とは	連携企業等：	合同会社UNITY
期間：	令和6年11月22日	対象：	全教員
内容	音楽・ダンス・エンタテイメント業界で求められる人間性指導について学ぶ		
研修名：	ハラスメント防止研修	連携企業等：	社会保険労務士法人 こじま事務所
期間：	令和7年2月※日程調整中	対象：	全教員
内容	職場内、学生対応におけるコミュニケーションや指導について学ぶ		
研修名：	考課者フォローアップ研修	連携企業等：	社会保険労務士法人 こじま事務所
期間：	令和7年3月11日	対象：	考課者
内容	考課者における指導・面談方法を学ぶ		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
学生、保護者、教職員等、直接的な学校関係者および就職先企業など、当校を取り巻く関係者にわかりやすく、明確な学校評価を実施する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
（2）学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
（3）教育活動	・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け、授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を就職するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取り組みが行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
（4）学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか

（5）学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか
（6）教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものとなっているか
（8）財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか
（9）法令等の遵守	・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
（10）社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
（11）国際交流	ー

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
評価すべき点として、主に以下のような内容が意見として出ている。

①新潟県の多くのイベントで生徒たちがインターンシップなどで活躍している状況は、新潟の音楽文化発展に大きく寄与している。
②多くの音楽関係者による特別授業を設定し、また生徒との名刺交換を実施するなど、社会人マナーを身に付ける場としても活用され、高く評価する。
③マナーやルールを徹底することは人間性育成にプラスになっている。
④新潟県の音楽系企業への専門職就職については概ね良好であり、現場で卒業生が活躍していることは、新潟県の音楽文化発展に大きく寄与している

また、改善が必要な点として、大きく以下の点が挙げられた。

①インターンシップを多く実施していることは非常に良いことであるが、毎回ある程度決まった学生がインターンシップを行っており、インターンシップに積極的に参加する学生とそうでない学生が二極化している。

⇒この点については、学内にてインターンシップの学生振り分けを学生担当を設け、二極化しないようにした。また担当教員が学生担当と密に連携し、多くの学生がインターンシップに参加できるように活かした。

②保護者との情報共有が薄く、学生の進路について、担任と保護者との連携を強めるべきである。

⇒この点については、定期的に「学校通信」を刊行し、学校で行われていることを定期的に保護者に伝えるようにしていく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
下坂　旬也	株式会社 柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業代表取締役
松本　和良	株式会社 柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業役員
国友　慎之助	合同会社UNITY	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	代表
山﨑　亮	作曲家(フリーランス)	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生
延澤　汐美	ヴォーカルインストラクター(フリーランス)	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL：　https://show-net.jp/pdf/information/evaluation.pdf
公表時期：　令和6年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
・パンフレットなどの印刷物、ホームページなど学校の紹介の中で現在の状況を伝えること
・具体性を持った情報提供に努めること

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	（1）学校の概要、目標及び計画
（2）各学科等の教育	（2）各学科等の教育
（3）教職員	（3）教職員
（4）キャリア教育・実践的職業教育	（4）キャリア教育・実践的職業教育
（5）様々な教育活動・教育環境	（5）様々な教育活動
（6）学生の生活支援	（6）学生の生活支援
（7）学生納付金・修学支援	（7）学生納付金・修学支援
（8）学校の財務	（8）学校の財務
（9）学校評価	（9）学校評価
（10）国際連携の状況	－
（11）その他	－

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL：　https://show-net.jp/information.php
公表時期：　令和6年3月31日

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程　音楽アーティスト科(ギターコース)）

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法				場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技		校内	校外	専任	兼任	
1	○			SHOW!音楽エンタテイメントゼミ	関連企業による専門分野に特化した講演・講義を実施。音楽・放送分野に関する基礎的な知識や技術の習得とともに、同分野への興味関心をより高める。	1・2通	90	-	○				○			○	
2	○			デビュー・就職実務Ⅰ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	1通	72	-	○				○		○		
3	○			デビュー・就職実務Ⅱ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	2通	55	-	○				○			○	
4	○			著作権	音楽著作権を主とした知識習得およびビジネス著作権初級合格	1後	25	-	○				○		○		
5	○			選択授業	音楽全般の選択授業	1・2通	68	-	○				○		○		
6	○			PC実習	Word文書処理技能認定試験・Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目指すとともに、基本的なビジネス文書の作成や、様々な自己プレゼン資料等の作成に生かす。	1・2通	54	-			○		○		○		
7	○			異文化研究	グローバル化していく時代に対応するため、他国の文化を学び研究し、プレゼンを行う	1・2後	40	-	○				○		○		
8	○			イベント制作実習A	進級における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2前	##	-			○		○	○	○	○	○
9	○			イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2後	##	-			○		○	○	○	○	○
10	○			DTM	譜面（マスタリズム/リードシート）を用いた演奏のアプローチ、バンド演奏時に必要な知識・技術を習得する。	1通	76	-			○		○			○	
11	○			ギター実践Ⅰ	さまざまなタイプのギタリストのプレイや特徴を追求、研究し自らのプレイに取り入れる。	2通	38	-			○		○			○	
12	○			ギタートレーニングⅠ	実践での演奏に必要な技術を養う。様々なスタイルやコード進行に対応できるバッキング、アドリブ等のアプローチ方法を学びます	1通	38	-			○		○			○	
13	○			ギター専攻実技Ⅰ	主にアコースティックギターを使用し、弾き語りの伴奏を体得する。また、ギターを使用したコード理論・ケーデンス・作曲法も体得する。	1通	38	-	○				○			○	
14	○			ギター実技Ⅰ	音楽理論を交えた演奏や、各音楽ジャンルへの理解を深めます。	1通	34	-			○		○			○	
15	○			アンサンブルトレーニングⅠ	専攻授業の実践や応用、読譜力、専攻楽器以外の知識習得し、バンド演奏に必要な音楽的知識を総合的に学ぶ内容	2通	34	-			○		○		○		
16	○			アンサンブル実習	アンサンブルを通じて、バンドでのリズム・メロディ・ハーモニーのアレンジを総合的に学ぶ。	1通	60	-			○		○		○		
17	○			ギター実践Ⅱ	さまざまなタイプのギタリストのプレイや特徴を追求、研究し自らのプレイに取り入れる。	1通	38	-			○		○		○		
18	○			ギタートレーニングⅡ	総合的なギターの奏法を体得する。読譜からアドリブ演奏などの発展形までを網羅する。	2通	38	-			○		○		○		
19	○			ギター専攻実技Ⅱ	様々なスタイルやコード進行に対応できるバッキング、アドリブ等のアプローチ方法を学びます	2通	38	-	○				○			○	
20	○			ギター実技Ⅱ	様々なスタイルやコード進行に対応できるバッキング、アドリブ等のアプローチ方法を学びます	1通	34	-			○		○			○	
21	○			アンサンブルトレーニングⅡ	専攻授業の実践や応用、読譜力、専攻楽器以外の知識習得し、バンド演奏に必要な音楽的知識を総合的に学ぶ内容	2通	34	-			○		○		○		
合計					21 科目			1767 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： ①年次の授業全体の出席率85%以上 ②成績評価がすべてD以上 ③授業料等の学費の納入	1学年の学期区分	2 期
履修方法： 学科・コースのカリキュラムに沿って履修する	1学期の授業期間	18 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式4）

令和6年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	平成6年12月8日	田中　良	〒　951-8063 （住所）　新潟県新潟市中央区古町通7番町935番地　NSG-スクエア 2F （電話）　025-225-1661
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人国際総合学園	昭和32年10月10日	池田　祥護	〒　951-8063 （住所）　新潟県新潟市中央区古町通二番町541 （電話）　025-210-8565

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽アーティスト科 （ベースコース）	平成22(2010)年度	－	平成27(2015)年度

学科の目的	音楽アーティスト科の学科目的：優れた専門性と豊かな創造性を教育の基本理念とし、芸術分野に携わる人材としての専門技能及び実際生活に必要な能力を養成すると共に文化的教養の向上を図り、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。当学科では、充実したスタジオ設備の中でプロによる指導を最大限重視して専門教育を施し、専門性の高いヴォーカリストやミュージシャンを音楽業界へ輩出する。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	主に歌・楽器に関する知識・技術を高める学科である。 目指す資格：社会人常識マナー検定、コミュニケーション検定、Word文書処理技能認定試験、Excel表計算処理技能認定試験　など 中退率：0%(2022年度実績)

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,742 単位時間	420 単位時間	0 単位時間	1,322 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
20 人	1(20人の内数) 人	0 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 0	人
■就職希望者数 (D)	: 0	人
■就職者数 (E)	: 0	人
■地元就職者数 (F)	0	人
■就職率 (E/D)	0	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	0	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	0	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　5 年度卒業者に関する令和６年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

音楽プロダクション、TV・ラジオ局等の音楽・メディア業界、一般企業　他

－

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　－　　受審年月：　－　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ　－

当該学科のホームページURL

https://show-net.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	1,742 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,424 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	1,742 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,424 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	－ 単位
うち必修授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	－ 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	－ 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	10 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		12 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

音楽アーティスト科ベースコースでは、プロデビューやプロ活動、楽器インストラクター等の音楽・エンタテイメント業界で活躍できる人材の育成を目指している。
現在の音楽業界を取り巻く環境は日々変化しており、歌・ダンス・エンタテイメント・舞台に関する知識・技術が不可欠である。
本学科コースではこれらに必要な知識・技術を学べるようカリキュラムを編成している。
音楽プロダクションである「株式会社柳都アーティストファーム」と連携し、業界で求められている能力を身につけられるよう、意見交換を行いながら授業科目の設定や授業内容の改善を行っている。
また、学んだ知識をもとに地域社会に貢献できるように地域のイベントへの出演や楽曲制作など、実際の現場を体験しながら必要な知識・技術の定着を図るとともに、目標とする人材像を目指していく。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は本校の教務部長のもとにおく。
カリキュラム改善のための意見収集の場として位置付けられている。
業界、法人で求められる人材像に関する意見交換、それに対応できる教育内容、授業内容の検討の場として機能している。
その後、ここで得た意見を学内教務部にて再度検討し、決定する。
またその内容については、教育課程編成委員会へフィードバックを行う。

【審議の流れ】
①カリキュラム改善のための教育課程編成委員会での意見交換会議
②学内教務部にて①で出た意見を踏まえたカリキュラム改善の検討・決定
③②での決定事項を教育課程編成委員会へフィードバック
④カリキュラム改善

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
堀内　貞子	新潟市芸術文化振興財団	令和5年4月1日～令和7年3月31日	①
井上 一郎	株式会社エヌトライブ	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
CHiCO	SEKAI WALKER Producers 合同会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
下坂　旬也	株式会社柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
山本　雄太	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―
永島　麻耶	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―
梅川洸平	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （8月、3月）

（開催日時（実績））
第1回　令和5年8月31日　10:00～12:00
第2回　令和6年3月28日　10:00～12:00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
ミュージシャンとしてプロデビューや事務所所属を目指していくにあたり、いかに多くの楽曲を制作するかが重要だとの話になった。オリジナル曲を制作できるようなカリキュラムを盛り込んでいくことと、スタジオミュージシャンとして活躍できるようなスキルを身につけていくこと、など。「イベント制作実習A」や「イベント制作実習B」では新潟LOTSや新潟県民会館など、1000人規模の会場で発表を行うこともあり、集客についても学び、実践していくことでプロとして活動していくためのノウハウを学ぶことができる。学生のプロデビューやプロ活動のためにより企業と連携していくとの話になった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
① 企業連携に基づく実習授業を通して、学校とは異なる職業現場での経験を培う(職業実践の経験の獲得)。
② 当校にて学んだ知識・技術を実践現場への応用を図ることで、新たな知識・技術の習得を図る(習得知識・技術の定着ならびに応用)。
③ 企業連携を通じて、社会人として必要な意識の醸成を図る(社会人への導入教育)。
④ 業界または各企業の人材採用における人材要素の確認(人材要素に関する情報収集)。
⑤ 採用を視野にいれた実習運営(企業との良好な関係性の構築)。
⑥ 実習時間内における安全性の確保。
以上６点を基本方針として、実習授業の運営の協力を依頼している。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
基本的な企業との連携内容については、教員と企業担当者とで事前打ち合わせを行い、業界のニーズに沿った内容や評価方法について話し合い、その後、学生と企業担当者とで実習内容の打ち合わせを行い、企業担当者指導の下、実習を行う。
その後、進捗状況をチェックし、フィードバックとして必要な研修を学生に対し、行う。
実習後は企業担当者からの評価を踏まえ、教員が成績評価を行う。

以下具体的な授業内容とその方法、評価についてである。

①「イベント制作実習」では、企業である「エヌトライブ」や「柳都アーティストファーム」と実習内容について、業界のニーズに沿った内容や評価方法について設定
②学生と企業担当者とで実習内容の事前の打ち合わせを行う
③「イベント制作実習」にて上記企業指導の下、レコーディングを実施
④学生による実習の報告を学内にて教員が確認し、必要な研修の実施
⑤企業担当者による評価として、学生の制作内容、技術の習熟度を総合評価
⑥企業担当者による評価に基づき、教員が成績評価を行う

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
イベント制作実習A	進級・卒業における音楽イベントの発表会 野外フェスを作り上げる。フェスを作り上げる過程を企業と連携する。またステージの動画を音楽系企業に送付し、フィードバックを頂き、自身の学びにつなげていく。	株式会社エヌトライブ 株式会社柳都アーティストファーム
イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 新潟県民会館でのコンサートを実施。コンサートを作り上げる過程を企業と連携し、行っていく。またアーティストの視点でCD制作やミュージックビデオ制作を行ない、自身の活動に活かしていく。	株式会社エヌトライブ 株式会社柳都アーティストファーム

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 企業との連携による実践的かつ専門的な知識・技術・技能や、指導力の習得・向上のための組織的な研修機会を確保している。 就業規則第57条の規定に基づき、職員の教育、研修等を行う。 ①新入社員教育 ②一般的な知識・情操に関するもの ③専門分野の知識・技術に関するもの ④組織等についての管理、監督に関するもの ⑤諸法規、諸規定に関するもの ⑥安全・衛生管理に関するもの ⑦その他学生指導について必要と認められるもの また、これらの研修については年間計画に基づき、実施されるものである。 2月　新経営スタッフ研修 3月　専門学校新任教員基礎研修 3月　実践行動学インストラクター研修 3月　動画研修 3月　メンタルヘルス研修 6月　新入社員フォローアップ研修 6月　考課者研修 9月　対人コミュニケーションとプレゼンテーション研修 10月　マネジメントとリーダーシップ研修 10月　コーチング研修 11月　問題解決研修 また、このほかに業界の動向などを把握の上、専門課程の研修計画を改善し、必要な研修を実施する。
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等
研修名：　音楽業界セミナー　連携企業等：エイベックス・エンタテインメント株式会社 期間：　令和5年4月21日　対象：全教員 内容　変化の激しい音楽業界のトレンドと求められる人材について
研修名：　音楽アーティストセミナー　連携企業等：SEKAI WALKER 合同会社 期間：　令和5年5月19日　対象：全教員 内容　アーティストに求められる力とは？必要なスキル・考え方を学ぶ
研修名：　AI作曲セミナー　連携企業等：株式会社TMIK 期間：　令和5年6月2日　対象：全教員 内容　AI作曲ソフト「FIMIGRAM」の使用方法を学ぶ
②指導力の修得・向上のための研修等
研修名：　エンタメ業界における人間性育成とは　連携企業等：合同会社UNITY 期間：　令和5年4月14日　対象：全教員 内容　音楽・エンタテイメント業界で求められる人間性指導について学ぶ
研修名：　アンガーマネジメント　～怒りの感情に責任を持とう～　連携企業等：社会保険労務士法人 こじま事務所 期間：　令和5年7月26日　対象：全教員 内容　ハラスメント研修のうち、アンガーマネジメントについて学ぶ

研修名：	アンコンシャスバイアス研修	連携企業等：	一般社団法 人アンコンシャスバイアス研究所
期間：	令和6年2月21日	対象：	全教員
内容	アンコンシャスバイアスを知り、組織をよりよく変える方法を学ぶ		
（3）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	映像業界の今	連携企業等：	株式会社BABEL LABEL
期間：	令和6年10月4日	対象：	全教員
内容	映像業界に起きている状況と今後のトレンドについて学ぶ		
研修名：	音楽業界最前線セミナー	連携企業等：	SMASH ROOM
期間：	令和6年10月11日	対象：	全教員
内容	音楽事務所代表から現在の音楽業界で求められる人材について学ぶ		
研修名：	「よしもと」から学ぶエンタメ業界	連携企業等：	吉本興業株式会社
期間：	令和6年10月18日	対象：	全教員
内容	吉本興業が手掛けるエンタメ事業について学ぶ		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	ダンス・エンタメ業界における人間性育成とは	連携企業等：	合同会社UNITY
期間：	令和6年11月22日	対象：	全教員
内容	音楽・ダンス・エンタテイメント業界で求められる人間性指導について学ぶ		
研修名：	ハラスメント防止研修	連携企業等：	社会保険労務士法人 こじま事務所
期間：	令和7年2月※日程調整中	対象：	全教員
内容	職場内、学生対応におけるコミュニケーションや指導について学ぶ		
研修名：	考課者フォローアップ研修	連携企業等：	社会保険労務士法人 こじま事務所
期間：	令和7年3月11日	対象：	考課者
内容	考課者における指導・面談方法を学ぶ		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
学生、保護者、教職員等、直接的な学校関係者および就職先企業など、当校を取り巻く関係者にわかりやすく、明確な学校評価を実施する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
（2）学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
（3）教育活動	・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け、授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を就職するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取り組みが行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
（4）学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか

（5）学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか
（6）教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものとなっているか
（8）財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか
（9）法令等の遵守	・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
（10）社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
（11）国際交流	ー

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
評価すべき点として、主に以下のような内容が意見として出ている。

①新潟県の多くのイベントで生徒たちがインターンシップなどで活躍している状況は、新潟の音楽文化発展に大きく寄与している。
②多くの音楽関係者による特別授業を設定し、また生徒との名刺交換を実施するなど、社会人マナーを身に付ける場としても活用され、高く評価する。
③マナーやルールを徹底することは人間性育成にプラスになっている。
④新潟県の音楽系企業への専門職就職については概ね良好であり、現場で卒業生が活躍していることは、新潟県の音楽文化発展に大きく寄与している

また、改善が必要な点として、大きく以下の点が挙げられた。

①インターンシップを多く実施していることは非常に良いことであるが、毎回ある程度決まった学生がインターンシップを行っており、インターンシップに積極的に参加する学生とそうでない学生が二極化している。

⇒この点については、学内にてインターンシップの学生振り分けを学生担当を設け、二極化しないようにした。また担当教員が学生担当と密に連携し、多くの学生がインターンシップに参加できるように活かした。

②保護者との情報共有が薄く、学生の進路について、担任と保護者との連携を強めるべきである。

⇒この点については、定期的に「学校通信」を刊行し、学校で行われていることを定期的に保護者に伝えるようにしていく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
下坂　旬也	株式会社 柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業代表取締役
松本　和良	株式会社 柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業役員
国友　慎之助	合同会社UNITY	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	代表
山﨑　亮	作曲家(フリーランス)	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生
延澤　汐美	ヴォーカルインストラクター(フリーランス)	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL：　https://show-net.jp/pdf/information/evaluation.pdf
公表時期：　令和6年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
・パンフレットなどの印刷物、ホームページなど学校の紹介の中で現在の状況を伝えること
・具体性を持った情報提供に努めること

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	（1）学校の概要、目標及び計画
（2）各学科等の教育	（2）各学科等の教育
（3）教職員	（3）教職員
（4）キャリア教育・実践的職業教育	（4）キャリア教育・実践的職業教育
（5）様々な教育活動・教育環境	（5）様々な教育活動
（6）学生の生活支援	（6）学生の生活支援
（7）学生納付金・修学支援	（7）学生納付金・修学支援
（8）学校の財務	（8）学校の財務
（9）学校評価	（9）学校評価
（10）国際連携の状況	－
（11）その他	－

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL：　https://show-net.jp/information.php
公表時期：　令和6年3月31日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程　音楽アーティスト科(ベースコース))

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法				場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技		校内	校外	専任	兼任	
1	○			SHOW!音楽エンタテイメントゼミ	関連企業による専門分野に特化した講演・講義を実施。音楽・放送分野に関する基礎的な知識や技術の習得とともに、同分野への興味関心をより高める。	1・2通	90	-	○				○			○	
2	○			デビュー・就職実務Ⅰ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	1通	72	-	○				○		○		
3	○			デビュー・就職実務Ⅱ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	2通	55	-	○				○			○	
4	○			著作権	音楽著作権を主とした知識習得およびビジネス著作権初級合格	1後	25	-	○				○		○		
5	○			選択授業	音楽全般の選択授業	1・2通	68	-	○				○		○		
6	○			PC実習	Word文書処理技能認定試験・Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目指すとともに、基本的なビジネス文書の作成や、様々な自己プレゼン資料等の作成に生かす。	1・2通	54	-			○		○		○		
7	○			異文化研究	グローバル化していく時代に対応するため、他国の文化を学び研究し、プレゼンを行う	1・2後	40	-	○				○		○		
8	○			イベント制作実習A	進級における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2前	##	-			○		○	○	○	○	○
9	○			イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2後	##	-			○		○	○	○	○	○
10	○			DTM	譜面（マスタリズム/リードシート）を用いた演奏のアプローチ、バンド演奏時に必要な知識・技術を習得する。	1通	76	-			○		○			○	
11	○			ベース実践Ⅰ	リズムアンサンブルを通して、クリックの重要性、リズムの強化、お互いの合わせ方を学ぶ。	2通	38	-			○		○			○	
12	○			ベーストレーニングⅠ	リズムアンサンブルを通して、クリックの重要性、リズムの強化、お互いの合わせ方を学ぶ。	1通	38	-			○		○			○	
13	○			ベース専攻実技Ⅰ	ベースの基礎的な演奏方法を学び、すべての奏法を網羅する。 様々なジャンルでの演奏方法を学ぶ。	1通	38	-	○				○			○	
14	○			ベース実技Ⅰ	基礎から発展したフレーズを学ぶ。音楽理論を踏まえたフレーズや、ベースラインの構築などを学ぶ。	1通	34	-			○		○			○	
15	○			アンサンブルトレーニングⅠ	専攻授業の実践や応用、読譜力、専攻楽器以外の知識習得し、バンド演奏に必要な音楽的知識を総合的に学ぶ内容	2通	34	-			○		○		○		
16	○			アンサンブル実習	アンサンブルを通じて、バンドでのリズム・メロディ・ハーモニーのアレンジを総合的に学ぶ。	1通	60	-			○		○		○		
17	○			ベース実践Ⅱ	ベースの基礎的な演奏方法を学び、すべての奏法を網羅する。 様々なジャンルでの演奏方法を学ぶ。	1通	38	-			○		○		○		
18	○			ベーストレーニングⅡ	リズムアンサンブルを通して、クリックの重要性、リズムの強化、お互いの合わせ方を学ぶ。	2通	38	-			○		○		○		
19	○			ベース専攻実技Ⅱ	ベースの基礎的な演奏方法を学び、すべての奏法を網羅する。 様々なジャンルでの演奏方法を学ぶ。	2通	38	-	○				○			○	
20	○			ベース実技Ⅱ	基礎から発展したフレーズを学ぶ。音楽理論を踏まえたフレーズや、ベースラインの構築などを学ぶ。	1通	34	-			○		○			○	
21	○			アンサンブルトレーニングⅡ	専攻授業の実践や応用、読譜力、専攻楽器以外の知識習得し、バンド演奏に必要な音楽的知識を総合的に学ぶ内容	2通	34	-			○		○		○		
合計					21 科目			1806 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： ①年次の授業全体の出席率85%以上 ②成績評価がすべてD以上 ③授業料等の学費の納入	1学年の学期区分	2 期
履修方法： 学科・コースのカリキュラムに沿って履修する	1学期の授業期間	18 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式4）

令和6年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	平成6年12月8日	田中　良	〒　951-8063 （住所）　新潟県新潟市中央区古町通7番町935番地　NSG-スクエア 2F （電話）　025-225-1661
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人国際総合学園	昭和32年10月10日	池田　祥護	〒　951-8063 （住所）　新潟県新潟市中央区古町通二番町541 （電話）　025-210-8565

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽アーティスト科 （ドラムスコース）	平成22(2010)年度	－	平成27(2015)年度

学科の目的	音楽アーティスト科の学科目的：優れた専門性と豊かな創造性を教育の基本理念とし、芸術分野に携わる人材としての専門技能及び実際生活に必要な能力を養成すると共に文化的教養の向上を図り、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。当学科では、充実したスタジオ設備の中でプロによる指導を最大限重視して専門教育を施し、専門性の高いヴォーカリストやミュージシャンを音楽業界へ輩出する。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	主に歌・楽器に関する知識・技術を高める学科である。 目指す資格：社会人常識マナー検定、コミュニケーション検定、Word文書処理技能認定試験、Excel表計算処理技能認定試験　など 中退率：0%(2022年度実績)

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,742 単位時間	420 単位時間	0 単位時間	1,322 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
20 人	1(20人の内数) 人	0 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 2	人
■就職希望者数 (D)	: 2	人
■就職者数 (E)	: 1	人
■地元就職者数 (F)	1	人
■就職率 (E/D)	50	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	100	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	50	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　5 年度卒業者に関する令和６年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

音楽プロダクション、TV・ラジオ局等の音楽・メディア業界、一般企業　他

－

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　－　　受審年月：　－　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ　－

当該学科のホームページURL

https://show-net.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	1,742 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,424 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	1,742 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,424 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	－ 単位
うち必修授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	－ 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	－ 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	10 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		12 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

音楽アーティスト科ドラムスコースでは、プロデビューやプロ活動、楽器インストラクター等の音楽・エンタテイメント業界で活躍できる人材の育成を目指している。
現在の音楽業界を取り巻く環境は日々変化しており、歌・ダンス・エンタテイメント・舞台に関する知識・技術が不可欠である。
本学科コースではこれらに必要な知識・技術を学べるようカリキュラムを編成している。
音楽プロダクションである「株式会社柳都アーティストファーム」と連携し、業界で求められている能力を身につけられるよう、意見交換を行いながら授業科目の設定や授業内容の改善を行っている。
また、学んだ知識をもとに地域社会に貢献できるように地域のイベントへの出演や楽曲制作など、実際の現場を体験しながら必要な知識・技術の定着を図るとともに、目標とする人材像を目指していく。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は本校の教務部長のもとにおく。
カリキュラム改善のための意見収集の場として位置付けられている。
業界、法人で求められる人材像に関する意見交換、それに対応できる教育内容、授業内容の検討の場として機能している。
その後、ここで得た意見を学内教務部にて再度検討し、決定する。
またその内容については、教育課程編成委員会へフィードバックを行う。

【審議の流れ】
①カリキュラム改善のための教育課程編成委員会での意見交換会議
②学内教務部にて①で出た意見を踏まえたカリキュラム改善の検討・決定
③②での決定事項を教育課程編成委員会へフィードバック
④カリキュラム改善

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
堀内　貞子	新潟市芸術文化振興財団	令和5年4月1日～令和7年3月31日	①
井上 一郎	株式会社エヌトライブ	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
CHiCO	SEKAI WALKER Producers 合同会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
下坂　旬也	株式会社柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
山本　雄太	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―
永島　麻耶	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―
梅川洸平	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （8月、3月）

（開催日時（実績））
第1回　令和5年8月31日　10:00～12:00
第2回　令和6年3月28日　10:00～12:00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
ミュージシャンとしてプロデビューや事務所所属を目指していくにあたり、いかに多くの楽曲を制作するかが重要だとの話になった。オリジナル曲を制作できるようなカリキュラムを盛り込んでいくことと、スタジオミュージシャンとして活躍できるようなスキルを身につけていくこと、など。「イベント制作実習A」や「イベント制作実習B」では新潟LOTSや新潟県民会館など、1000人規模の会場で発表を行うこともあり、集客についても学び、実践していくことでプロとして活動していくためのノウハウを学ぶことができる。学生のプロデビューやプロ活動のためにより企業と連携していくとの話になった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
① 企業連携に基づく実習授業を通して、学校とは異なる職業現場での経験を培う(職業実践の経験の獲得)。
② 当校にて学んだ知識・技術を実践現場への応用を図ることで、新たな知識・技術の習得を図る(習得知識・技術の定着ならびに応用)。
③ 企業連携を通じて、社会人として必要な意識の醸成を図る(社会人への導入教育)。
④ 業界または各企業の人材採用における人材要素の確認(人材要素に関する情報収集)。
⑤ 採用を視野にいれた実習運営(企業との良好な関係性の構築)。
⑥ 実習時間内における安全性の確保。
以上６点を基本方針として、実習授業の運営の協力を依頼している。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
基本的な企業との連携内容については、教員と企業担当者とで事前打ち合わせを行い、業界のニーズに沿った内容や評価方法について話し合い、その後、学生と企業担当者とで実習内容の打ち合わせを行い、企業担当者指導の下、実習を行う。
その後、進捗状況をチェックし、フィードバックとして必要な研修を学生に対し、行う。
実習後は企業担当者からの評価を踏まえ、教員が成績評価を行う。

以下具体的な授業内容とその方法、評価についてである。

①「イベント制作実習」では、企業である「エヌトライブ」や「柳都アーティストファーム」と実習内容について、業界のニーズに沿った内容や評価方法について設定
②学生と企業担当者とで実習内容の事前の打ち合わせを行う
③「イベント制作実習」にて上記企業指導の下、レコーディングを実施
④学生による実習の報告を学内にて教員が確認し、必要な研修の実施
⑤企業担当者による評価として、学生の制作内容、技術の習熟度を総合評価
⑥企業担当者による評価に基づき、教員が成績評価を行う

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
イベント制作実習A	進級・卒業における音楽イベントの発表会 野外フェスを作り上げる。フェスを作り上げる過程を企業と連携する。またステージの動画を音楽系企業に送付し、フィードバックを頂き、自身の学びにつなげていく。	株式会社エヌトライブ 株式会社柳都アーティストファーム
イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 新潟県民会館でのコンサートを実施。コンサートを作り上げる過程を企業と連携し、行っていく。またアーティストの視点でCD制作やミュージックビデオ制作を行ない、自身の活動に活かしていく。	株式会社エヌトライブ 株式会社柳都アーティストファーム

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

企業との連携による実践的かつ専門的な知識・技術・技能や、指導力の習得・向上のための組織的な研修機会を確保している。

就業規則第57条の規定に基づき、職員の教育、研修等を行う。

①新入社員教育
②一般的な知識・情操に関するもの
③専門分野の知識・技術に関するもの
④組織等についての管理、監督に関するもの
⑤諸法規、諸規定に関するもの
⑥安全・衛生管理に関するもの
⑦その他学生指導について必要と認められるもの

また、これらの研修については年間計画に基づき、実施されるものである。

2月　新経営スタッフ研修
3月　専門学校新任教員基礎研修
3月　実践行動学インストラクター研修
3月　動画研修
3月　メンタルヘルス研修
6月　新入社員フォローアップ研修
6月　考課者研修
9月　対人コミュニケーションとプレゼンテーション研修
10月　マネジメントとリーダーシップ研修
10月　コーチング研修
11月　問題解決研修

また、このほかに業界の動向などを把握の上、専門課程の研修計画を改善し、必要な研修を実施する。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	音楽業界セミナー	連携企業等：	エイベックス・エンタテインメント株式会社
期間：	令和5年4月21日	対象：	全教員
内容	変化の激しい音楽業界のトレンドと求められる人材について		
研修名：	音楽アーティストセミナー	連携企業等：	SEKAI WALKER 合同会社
期間：	令和5年5月19日	対象：	全教員
内容	アーティストに求められる力とは？必要なスキル・考え方を学ぶ		
研修名：	AI作曲セミナー	連携企業等：	株式会社TMIK
期間：	令和5年6月2日	対象：	全教員
内容	AI作曲ソフト「FIMIGRAM」の使用方法を学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	エンタメ業界における人間性育成とは	連携企業等：	合同会社UNITY
期間：	令和5年4月14日	対象：	全教員
内容	音楽・エンタテイメント業界で求められる人間性指導について学ぶ		
研修名：	アンガーマネジメント　～怒りの感情に責任を持とう～	連携企業等：	社会保険労務士法人 こじま事務所
期間：	令和5年7月26日	対象：	全教員
内容	ハラスメント研修のうち、アンガーマネジメントについて学ぶ		

研修名：	アンコンシャスバイアス研修	連携企業等：	一般社団法 人アンコンシャスバイアス研究所
期間：	令和6年2月21日	対象：	全教員
内容	アンコンシャスバイアスを知り、組織をよりよく変える方法を学ぶ		
（3）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	映像業界の今	連携企業等：	株式会社BABEL LABEL
期間：	令和6年10月4日	対象：	全教員
内容	映像業界に起きている状況と今後のトレンドについて学ぶ		
研修名：	音楽業界最前線セミナー	連携企業等：	SMASH ROOM
期間：	令和6年10月11日	対象：	全教員
内容	音楽事務所代表から現在の音楽業界で求められる人材について学ぶ		
研修名：	「よしもと」から学ぶエンタメ業界	連携企業等：	吉本興業株式会社
期間：	令和6年10月18日	対象：	全教員
内容	吉本興業が手掛けるエンタメ事業について学ぶ		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	ダンス・エンタメ業界における人間性育成とは	連携企業等：	合同会社UNITY
期間：	令和6年11月22日	対象：	全教員
内容	音楽・ダンス・エンタテイメント業界で求められる人間性指導について学ぶ		
研修名：	ハラスメント防止研修	連携企業等：	社会保険労務士法人 こじま事務所
期間：	令和7年2月※日程調整中	対象：	全教員
内容	職場内、学生対応におけるコミュニケーションや指導について学ぶ		
研修名：	考課者フォローアップ研修	連携企業等：	社会保険労務士法人 こじま事務所
期間：	令和7年3月11日	対象：	考課者
内容	考課者における指導・面談方法を学ぶ		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
学生、保護者、教職員等、直接的な学校関係者および就職先企業など、当校を取り巻く関係者にわかりやすく、明確な学校評価を実施する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
（2）学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
（3）教育活動	・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け、授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を就職するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取り組みが行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
（4）学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか

（5）学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか
（6）教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものとなっているか
（8）財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか
（9）法令等の遵守	・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
（10）社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
（11）国際交流	ー

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
評価すべき点として、主に以下のような内容が意見として出ている。

①新潟県の多くのイベントで生徒たちがインターンシップなどで活躍している状況は、新潟の音楽文化発展に大きく寄与している。
②多くの音楽関係者による特別授業を設定し、また生徒との名刺交換を実施するなど、社会人マナーを身に付ける場としても活用され、高く評価する。
③マナーやルールを徹底することは人間性育成にプラスになっている。
④新潟県の音楽系企業への専門職就職については概ね良好であり、現場で卒業生が活躍していることは、新潟県の音楽文化発展に大きく寄与している

また、改善が必要な点として、大きく以下の点が挙げられた。

①インターンシップを多く実施していることは非常に良いことであるが、毎回ある程度決まった学生がインターンシップを行っており、インターンシップに積極的に参加する学生とそうでない学生が二極化している。

⇒この点については、学内にてインターンシップの学生振り分けを学生担当を設け、二極化しないようにした。また担当教員が学生担当と密に連携し、多くの学生がインターンシップに参加できるように活かした。

②保護者との情報共有が薄く、学生の進路について、担任と保護者との連携を強めるべきである。

⇒この点については、定期的に「学校通信」を刊行し、学校で行われていることを定期的に保護者に伝えるようにしていく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
下坂　旬也	株式会社 柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業代表取締役
松本　和良	株式会社 柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業役員
国友　慎之助	合同会社UNITY	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	代表
山﨑　亮	作曲家(フリーランス)	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生
延澤　汐美	ヴォーカルインストラクター(フリーランス)	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL：　https://show-net.jp/pdf/information/evaluation.pdf
公表時期：　令和6年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
・パンフレットなどの印刷物、ホームページなど学校の紹介の中で現在の状況を伝えること
・具体性を持った情報提供に努めること

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	（1）学校の概要、目標及び計画
（2）各学科等の教育	（2）各学科等の教育
（3）教職員	（3）教職員
（4）キャリア教育・実践的職業教育	（4）キャリア教育・実践的職業教育
（5）様々な教育活動・教育環境	（5）様々な教育活動
（6）学生の生活支援	（6）学生の生活支援
（7）学生納付金・修学支援	（7）学生納付金・修学支援
（8）学校の財務	（8）学校の財務
（9）学校評価	（9）学校評価
（10）国際連携の状況	－
（11）その他	－

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL：　https://show-net.jp/information.php
公表時期：　令和6年3月31日

授業科目等の概要

	(文化・教養専門課程　音楽アーティスト科(ドラムスコース))																
	分類								授業方法			場所		教員			
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
1	○			SHOW!音楽エンタテイメントゼミ	関連企業による専門分野に特化した講演・講義を実施。音楽・放送分野に関する基礎的な知識や技術の習得とともに、同分野への興味関心をより高める。	1・2通	90	-	○			○			○	
2	○			デビュー・就職実務Ⅰ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	1通	72	-	○			○		○		
3	○			デビュー・就職実務Ⅱ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	2通	55	-	○			○			○	
4	○			著作権	音楽著作権を主とした知識習得およびビジネス著作権初級合格	1後	25	-	○			○		○		
5	○			選択授業	音楽全般の選択授業	1・2通	68	-	○			○		○		
6	○			PC実習	Word文書処理技能認定試験・Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目指すとともに、基本的なビジネス文書の作成や、様々な自己プレゼン資料等の作成に生かす。	1・2通	54	-			○	○		○		
7	○			異文化研究	グローバル化していく時代に対応するため、他国の文化を学び研究し、プレゼンを行う	1・2後	40	-	○			○		○		
8	○			イベント制作実習A	進級における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2前	##	-			○	○	○	○	○	○
9	○			イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2後	##	-			○	○	○	○	○	○
10	○			DTM	譜面（マスタリズム/リードシート）を用いた演奏のアプローチ、バンド演奏時に必要な知識・技術を習得する。	1・2通	76	-			○	○			○	
11	○			ドラムス実践Ⅰ	チェンジアップなど、ドラムの基礎的な部分の理解、習得。	2通	38	-			○	○			○	
12	○			ドラムス実践Ⅱ	スティックコントロール、フットワークなどの理解、習得	1通	38	-			○	○			○	
13	○			ドラムストレーニングⅠ	ドラムグレード試験の内容、目的の理解。７級取得を基本目的とし個人差で上下。	1通	38	-	○			○			○	
14	○			ドラムストレーニングⅡ	ドラマーとしてのリズムキープを年間通して指導。 ボディバランス強化のため筋トレ実施。	1通	38	-			○	○			○	
15	○			ドラムス専攻実技Ⅰ	ドラム演奏の知識や、技術を基礎から応用まで学ぶ。	2通	38	-			○	○		○		
16	○			ドラムス専攻実技Ⅱ	身体の使い方に着目した無理の無い、演奏フォームを身に着ける。	1通	38	-			○	○		○		
17	○			ドラムス実技Ⅰ	1.読譜能力の習得 2.即興演奏力の習得	1通	34	-			○	○		○		
18	○			ドラムス実技Ⅱ	1.読譜能力の習得 2.即興演奏力の習得	2通	34	-			○	○		○		
19	○			アンサンブルトレーニングⅠ	実践でのトレーニング。専攻授業の実践や応用、読譜力、専攻楽器以外の知識習得し、バンド演奏に必要な音楽的知識を総合的に学ぶ内容	2通	34	-	○			○			○	
20	○			アンサンブルトレーニングⅡ	基礎から発展したフレーズを学ぶ。音楽理論を踏まえたフレーズや、ベースラインの構築などを学ぶ。	1通	34	-			○	○			○	
21	○			アンサンブル実習	専攻授業の実践や応用、読譜力、専攻楽器以外の知識習得し、バンド演奏に必要な音楽的知識を総合的に学ぶ内容	2通	60	-			○	○		○		
合計					21 科目			1806 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： ①年次の授業全体の出席率85%以上 ②成績評価がすべてD以上 ③授業料等の学費の納入	1学年の学期区分	2 期
履修方法： 学科・コースのカリキュラムに沿って履修する	1学期の授業期間	18 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式4）

令和5年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	平成6年12月8日	田中　良	〒　951-8063 （住所）　新潟県新潟市中央区古町通7番町935番地　NSG-スクエア 2F （電話）　025-225-1661
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人国際総合学園	昭和32年10月10日	池田　祥護	〒　951-8063 （住所）　新潟県新潟市中央区古町通二番町541 （電話）　025-210-8565

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽アーティスト科 （キーボードコース）	平成22(2010)年度	－	平成27(2015)年度

学科の目的	音楽アーティスト科の学科目的：優れた専門性と豊かな創造性を教育の基本理念とし、芸術分野に携わる人材としての専門技能及び実際生活に必要な能力を養成すると共に文化的教養の向上を図り、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。当学科では、充実したスタジオ設備の中でプロによる指導を最大限重視して専門教育を施し、専門性の高いヴォーカリストやミュージシャンを音楽業界へ輩出する。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	主に歌・楽器に関する知識・技術を高める学科である。 目指す資格：社会人常識マナー検定、コミュニケーション検定、Word文書処理技能認定試験、Excel表計算処理技能認定試験　など 中退率：0%(2022年度実績)

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,742 単位時間	420 単位時間	0 単位時間	970 単位時間	0 単位時間	1,322 単位時間
			－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位	－ 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
20 人	1(20人の内数) 人	0 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 1	人
■就職希望者数 (D)	: 1	人
■就職者数 (E)	: 1	人
■地元就職者数 (F)	0	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	0	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	100	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　5 年度卒業者に関する令和６年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

音楽プロダクション、TV・ラジオ局等の音楽・メディア業界、一般企業　他

－

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　－　　受審年月：　－　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ　－

当該学科のホームページURL

https://show-net.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	1,742 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,424 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	1,742 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,424 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	－ 単位
うち必修授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	－ 単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	－ 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	－ 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	10 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		12 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

音楽アーティスト科キーボードコースでは、プロデビューやプロ活動、楽器インストラクター等の音楽・エンタテイメント業界で活躍できる人材の育成を目指している。
現在の音楽業界を取り巻く環境は日々変化しており、歌・ダンス・エンタテイメント・舞台に関する知識・技術が不可欠である。
本学科コースではこれらに必要な知識・技術を学べるようカリキュラムを編成している。
音楽プロダクションである「株式会社柳都アーティストファーム」と連携し、業界で求められている能力を身につけられるよう、意見交換を行いながら授業科目の設定や授業内容の改善を行っている。
また、学んだ知識をもとに地域社会に貢献できるように地域のイベントへの出演や楽曲制作など、実際の現場を体験しながら必要な知識・技術の定着を図るとともに、目標とする人材像を目指していく。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は本校の教務部長のもとにおく。
カリキュラム改善のための意見収集の場として位置付けられている。
業界、法人で求められる人材像に関する意見交換、それに対応できる教育内容、授業内容の検討の場として機能している。
その後、ここで得た意見を学内教務部にて再度検討し、決定する。
またその内容については、教育課程編成委員会へフィードバックを行う。

【審議の流れ】
①カリキュラム改善のための教育課程編成委員会での意見交換会議
②学内教務部にて①で出た意見を踏まえたカリキュラム改善の検討・決定
③②での決定事項を教育課程編成委員会へフィードバック
④カリキュラム改善

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
堀内　貞子	新潟市芸術文化振興財団	令和5年4月1日～令和7年3月31日	①
井上 一郎	株式会社エヌトライブ	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
CHiCO	SEKAI WALKER Producers 合同会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
下坂　旬也	株式会社柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
山本　雄太	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―
永島　麻耶	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―
梅川洸平	国際音楽・ダンス・エンタテイメント専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （8月、3月）

（開催日時（実績））
第1回　令和5年8月31日　10:00～12:00
第2回　令和6年3月28日　10:00～12:00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
ミュージシャンとしてプロデビューや事務所所属を目指していくにあたり、いかに多くの楽曲を制作するかが重要だとの話になった。オリジナル曲を制作できるようなカリキュラムを盛り込んでいくことと、スタジオミュージシャンとして活躍できるようなスキルを身につけていくこと、など。「イベント制作実習A」や「イベント制作実習B」では新潟LOTSや新潟県民会館など、1000人規模の会場で発表を行うこともあり、集客についても学び、実践していくことでプロとして活動していくためのノウハウを学ぶことができる。学生のプロデビューやプロ活動のためにより企業と連携していくとの話になった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
① 企業連携に基づく実習授業を通して、学校とは異なる職業現場での経験を培う(職業実践の経験の獲得)。
② 当校にて学んだ知識・技術を実践現場への応用を図ることで、新たな知識・技術の習得を図る(習得知識・技術の定着ならびに応用)。
③ 企業連携を通じて、社会人として必要な意識の醸成を図る(社会人への導入教育)。
④ 業界または各企業の人材採用における人材要素の確認(人材要素に関する情報収集)。
⑤ 採用を視野にいれた実習運営(企業との良好な関係性の構築)。
⑥ 実習時間内における安全性の確保。
以上６点を基本方針として、実習授業の運営の協力を依頼している。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
基本的な企業との連携内容については、教員と企業担当者とで事前打ち合わせを行い、業界のニーズに沿った内容や評価方法について話し合い、その後、学生と企業担当者とで実習内容の打ち合わせを行い、企業担当者指導の下、実習を行う。
その後、進捗状況をチェックし、フィードバックとして必要な研修を学生に対し、行う。
実習後は企業担当者からの評価を踏まえ、教員が成績評価を行う。

以下具体的な授業内容とその方法、評価についてである。

①「イベント制作実習」では、企業である「エヌトライブ」や「柳都アーティストファーム」と実習内容について、業界のニーズに沿った内容や評価方法について設定
②学生と企業担当者とで実習内容の事前の打ち合わせを行う
③「イベント制作実習」にて上記企業指導の下、レコーディングを実施
④学生による実習の報告を学内にて教員が確認し、必要な研修の実施
⑤企業担当者による評価として、学生の制作内容、技術の習熟度を総合評価
⑥企業担当者による評価に基づき、教員が成績評価を行う

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
イベント制作実習A	進級・卒業における音楽イベントの発表会 野外フェスを作り上げる。フェスを作り上げる過程を企業と連携する。またステージの動画を音楽系企業に送付し、フィードバックを頂き、自身の学びにつなげていく。	株式会社エヌトライブ 株式会社柳都アーティストファーム
イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 新潟県民会館でのコンサートを実施。コンサートを作り上げる過程を企業と連携し、行っていく。またアーティストの視点でCD制作やミュージックビデオ制作を行ない、自身の活動に活かしていく。	株式会社エヌトライブ 株式会社柳都アーティストファーム

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 企業との連携による実践的かつ専門的な知識・技術・技能や、指導力の習得・向上のための組織的な研修機会を確保している。 就業規則第57条の規定に基づき、職員の教育、研修等を行う。 ①新入社員教育 ②一般的な知識・情操に関するもの ③専門分野の知識・技術に関するもの ④組織等についての管理、監督に関するもの ⑤諸法規、諸規定に関するもの ⑥安全・衛生管理に関するもの ⑦その他学生指導について必要と認められるもの また、これらの研修については年間計画に基づき、実施されるものである。 2月　新経営スタッフ研修 3月　専門学校新任教員基礎研修 3月　実践行動学インストラクター研修 3月　動画研修 3月　メンタルヘルス研修 6月　新入社員フォローアップ研修 6月　考課者研修 9月　対人コミュニケーションとプレゼンテーション研修 10月　マネジメントとリーダーシップ研修 10月　コーチング研修 11月　問題解決研修 また、このほかに業界の動向などを把握の上、専門課程の研修計画を改善し、必要な研修を実施する。
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等
研修名：　音楽業界セミナー　連携企業等：エイベックス・エンタテインメント株式会社 期間：　令和5年4月21日　対象：全教員 内容　変化の激しい音楽業界のトレンドと求められる人材について
研修名：　音楽アーティストセミナー　連携企業等：SEKAI WALKER 合同会社 期間：　令和5年5月19日　対象：全教員 内容　アーティストに求められる力とは？必要なスキル・考え方を学ぶ
研修名：　AI作曲セミナー　連携企業等：株式会社TMIK 期間：　令和5年6月2日　対象：全教員 内容　AI作曲ソフト「FIMIGRAM」の使用方法を学ぶ
②指導力の修得・向上のための研修等
研修名：　エンタメ業界における人間性育成とは　連携企業等：合同会社UNITY 期間：　令和5年4月14日　対象：全教員 内容　音楽・エンタテイメント業界で求められる人間性指導について学ぶ
研修名：　アンガーマネジメント　～怒りの感情に責任を持とう～　連携企業等：社会保険労務士法人 こじま事務所 期間：　令和5年7月26日　対象：全教員 内容　ハラスメント研修のうち、アンガーマネジメントについて学ぶ

研修名：	アンコンシャスバイアス研修	連携企業等：	一般社団法 人アンコンシャスバイアス研究所
期間：	令和6年2月21日	対象：	全教員
内容	アンコンシャスバイアスを知り、組織をよりよく変える方法を学ぶ		
（3）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	映像業界の今	連携企業等：	株式会社BABEL LABEL
期間：	令和6年10月4日	対象：	全教員
内容	映像業界に起きている状況と今後のトレンドについて学ぶ		
研修名：	音楽業界最前線セミナー	連携企業等：	SMASH ROOM
期間：	令和6年10月11日	対象：	全教員
内容	音楽事務所代表から現在の音楽業界で求められる人材について学ぶ		
研修名：	「よしもと」から学ぶエンタメ業界	連携企業等：	吉本興業株式会社
期間：	令和6年10月18日	対象：	全教員
内容	吉本興業が手掛けるエンタメ事業について学ぶ		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	ダンス・エンタメ業界における人間性育成とは	連携企業等：	合同会社UNITY
期間：	令和6年11月22日	対象：	全教員
内容	音楽・ダンス・エンタテイメント業界で求められる人間性指導について学ぶ		
研修名：	ハラスメント防止研修	連携企業等：	社会保険労務士法人 こじま事務所
期間：	令和7年2月※日程調整中	対象：	全教員
内容	職場内、学生対応におけるコミュニケーションや指導について学ぶ		
研修名：	考課者フォローアップ研修	連携企業等：	社会保険労務士法人 こじま事務所
期間：	令和7年3月11日	対象：	考課者
内容	考課者における指導・面談方法を学ぶ		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
学生、保護者、教職員等、直接的な学校関係者および就職先企業など、当校を取り巻く関係者にわかりやすく、明確な学校評価を実施する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
（2）学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
（3）教育活動	・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け、授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を就職するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取り組みが行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
（4）学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか

（5）学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか
（6）教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものとなっているか
（8）財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか
（9）法令等の遵守	・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
（10）社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
（11）国際交流	ー

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
評価すべき点として、主に以下のような内容が意見として出ている。

①新潟県の多くのイベントで生徒たちがインターンシップなどで活躍している状況は、新潟の音楽文化発展に大きく寄与している。
②多くの音楽関係者による特別授業を設定し、また生徒との名刺交換を実施するなど、社会人マナーを身に付ける場としても活用され、高く評価する。
③マナーやルールを徹底することは人間性育成にプラスになっている。
④新潟県の音楽系企業への専門職就職については概ね良好であり、現場で卒業生が活躍していることは、新潟県の音楽文化発展に大きく寄与している

また、改善が必要な点として、大きく以下の点が挙げられた。

①インターンシップを多く実施していることは非常に良いことであるが、毎回ある程度決まった学生がインターンシップを行っており、インターンシップに積極的に参加する学生とそうでない学生が二極化している。

⇒この点については、学内にてインターンシップの学生振り分けを学生担当を設け、二極化しないようにした。また担当教員が学生担当と密に連携し、多くの学生がインターンシップに参加できるように活かした。

②保護者との情報共有が薄く、学生の進路について、担任と保護者との連携を強めるべきである。

⇒この点については、定期的に「学校通信」を刊行し、学校で行われていることを定期的に保護者に伝えるようにしていく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
下坂　旬也	株式会社 柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業代表取締役
松本　和良	株式会社 柳都アーティストファーム	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業役員
国友　慎之助	合同会社UNITY	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	代表
山﨑　亮	作曲家(フリーランス)	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生
延澤　汐美	ヴォーカルインストラクター(フリーランス)	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL：　https://show-net.jp/pdf/information/evaluation.pdf
公表時期：　令和6年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
・パンフレットなどの印刷物、ホームページなど学校の紹介の中で現在の状況を伝えること
・具体性を持った情報提供に努めること

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	（1）学校の概要、目標及び計画
（2）各学科等の教育	（2）各学科等の教育
（3）教職員	（3）教職員
（4）キャリア教育・実践的職業教育	（4）キャリア教育・実践的職業教育
（5）様々な教育活動・教育環境	（5）様々な教育活動
（6）学生の生活支援	（6）学生の生活支援
（7）学生納付金・修学支援	（7）学生納付金・修学支援
（8）学校の財務	（8）学校の財務
（9）学校評価	（9）学校評価
（10）国際連携の状況	－
（11）その他	－

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL：　https://show-net.jp/information.php
公表時期：　令和6年3月31日

授業科目等の概要

	(文化・教養専門課程　音楽アーティスト科(キーボードコース))																
	分類								授業方法			場所		教員			
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
1	○			SHOW!音楽エンタテイメントゼミ	関連企業による専門分野に特化した講演・講義を実施。音楽・放送分野に関する基礎的な知識や技術の習得とともに、同分野への興味関心をより高める。	1・2通	90	-	○			○			○	
2	○			デビュー・就職実務Ⅰ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	1通	72	-	○			○		○		
3	○			デビュー・就職実務Ⅱ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	2通	55	-	○			○			○	
4	○			著作権	音楽著作権を主とした知識習得およびビジネス著作権初級合格	1後	25	-	○			○		○		
5	○			選択授業	音楽全般の選択授業	1・2通	68	-	○			○		○		
6	○			PC実習	Word文書処理技能認定試験・Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目指すとともに、基本的なビジネス文書の作成や、様々な自己プレゼン資料等の作成に生かす。	1・2通	54	-			○	○		○		
7	○			異文化研究	グローバル化していく時代に対応するため、他国の文化を学び研究し、プレゼンを行う	1・2後	40	-	○			○		○		
8	○			イベント制作実習A	進級における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2前	##	-			○	○	○	○	○	○
9	○			イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2後	##	-			○	○	○	○	○	○
10	○			DTM	譜面（マスタリズム/リードシート）を用いた演奏のアプローチ、バンド演奏時に必要な知識・技術を習得する。	1・2通	76	-			○	○			○	
11	○			作曲音楽理論Ⅰ	作曲・編曲に必要なハーモニー・スケールの基礎を習得し、メロディーやアレンジのアプローチを学ぶ	2通	38	-			○	○			○	
12	○			作曲音楽理論Ⅱ	MIDIキーボードやシンセサイザーを活用した作編曲の手法を学ぶ。	1通	38	-			○	○			○	
13	○			キーボードトレーニングⅠ	コード理論、コードトレーニング、コードによるアレンジやアドリブ演奏等を総合的に学ぶ。	1通	38	-	○			○			○	
14	○			キーボードトレーニングⅡ	コード理論、コードトレーニング、コードによるアレンジやアドリブ演奏等を総合的に学ぶ。	1通	38	-			○	○			○	
15	○			ピアノ・キーボード専攻実技Ⅰ	ピアノ演奏の基礎となるトレーニングを行い、バンドアンサンブルにおけるキーボードパートの演奏技法の習得や、シンセサイザーの音作り、採譜を学ぶ。	2通	38	-			○	○		○		
16	○			ピアノ・キーボード専攻実技Ⅱ	ピアノ演奏の基礎となるトレーニングを行い、バンドアンサンブルにおけるキーボードパートの演奏技法の習得や、シンセサイザーの音作り、採譜を学ぶ。	1通	38	-			○	○		○		
17	○			ピアノ・キーボード実技Ⅰ	楽典による基礎知識および理論。 読譜力や実践のためのトレーニングと実技を学ぶ。	1通	36	-			○	○		○		
18	○			ピアノ・キーボード実技Ⅱ	楽典による基礎知識および理論。 読譜力や実践のためのトレーニングと実技を学ぶ。	2通	36	-			○	○		○		
19	○			アンサンブルトレーニングⅠ	実践でのトレーニング。専攻授業の実践や応用、読譜力、専攻楽器以外の知識習得し、バンド演奏に必要な音楽的知識を総合的に学ぶ内容	2通	36	-	○			○			○	
20	○			アンサンブルトレーニングⅡ	基礎から発展したフレーズを学ぶ。音楽理論を踏まえたフレーズや、ベースラインの構築などを学ぶ。	1通	36	-			○	○			○	
21	○			アンサンブル実習	専攻授業の実践や応用、読譜力、専攻楽器以外の知識習得し、バンド演奏に必要な音楽的知識を総合的に学ぶ内容	2通	68	-			○	○		○		
合計					21 科目			1822 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①年次の授業全体の出席率85%以上 ②成績評価がすべてD以上 ③授業料等の学費の納入	1学年の学期区分	2 期
履修方法：	学科・コースのカリキュラムに沿って履修する	1学期の授業期間	18 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。